

# No. 289 増刊号

農林水産省動物医薬品検査所



# 動薬検 ニュース



2026.1



つくば庁舎

## CONTENTS

◆ 動物医薬品検査所のつくば市への移転について	2
◆ つくば新庁舎のご紹介	3
◆ 開所式	6
❖ 所長挨拶（所長 荻窪 恭明）	
❖ 来賓祝辞（消費・安全局長 坂 勝浩 様）	
❖ 新庁舎御視察	
❖ 開所式～概要～	
◆ つくば庁舎開所式を祝う会	9
❖ 開会の挨拶（検査第一部長 嶋崎 洋子）	
❖ 主催者代表挨拶（所長 荻窪 恭明）	
❖ 来賓祝辞（消費・安全局長 坂 勝浩 様）	
❖ 乾杯の挨拶（第14代所長 平山 紀夫 様）	
❖ 歓 談	
❖ 余 興（企画連絡室長 永田 知史）	
❖ 中締め挨拶（第19代所長 小原 健児 様）	
❖ 閉会の辞（検査第二部長 関谷 辰朗）	
❖ つくば庁舎開所式を祝う会～概要～	
◆ けやきコラム	16
◆ 所在地（地図・アクセス）	16



## 動物医薬品検査所のつくば市への移転について

動物医薬品検査所 所長 荻窪 恭明



動薬検ニュースは、2011年1月の休刊以来、15年ぶりの発刊となります。

昨年9月、動物医薬品検査所は、東京都国分寺市から茨城県

つくば市へ全面移転しました。本号は、この大きな節目に当たり、当検査所の移転に至るまでの経緯を記録として残すとともに、日頃より当検査所の業務に御理解と御協力を賜っている関係者の皆様に、改めて御報告申し上げることを目的として発刊するものです。

当検査所は、昭和23年7月の旧薬事法制定を契機に、東京都北区西ヶ原の旧家畜衛生試験場に検定部が設置され、動物用生物学的製剤の検定が開始されたことに始まります。その後、昭和31年6月25日には、農林省の独立官署として「動物医薬品検査所」が設置されました。

昭和34年4月には、東京都国分寺市（当時：北多摩郡国分寺町戸倉新田）に新庁舎が完成し、以来67年にわたり、承認審査や検査・検定等を通じて、動物用医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保、畜水産物の安全確保と安定供給、家畜衛生の向上や薬剤耐性対策の推進など、我が国の畜水産行政の基盤を支えてまいりました。

また、検査・検定方法の改良をはじめとする各種調査・研究に取り組み、学会発表や論文発表を通じて、獣医学領域等における科学・技術の発展にも貢献してきました。

一方、当検査所の移転は、昭和40年に東京都が都市計画道路の整備計画を決定したことを契機として、長年にわたり検討が重ねられてきました。平成18年

には、最大幅員43メートルへの整備計画変更により、高度封じ込め施設をはじめとする主要施設が計画道路にかかる状況となったことから、現有地での再築を含め、さまざまな可能性について関係機関と協議を重ねてまいりました。しかしながら、財政面等の課題から、最終的には現有地での再築は困難であるとの判断に至りました。

その後、平成28年8月以降は、国有地等を対象とした移転候補地の検討や、特定国有財産整備計画を活用した新施設の建設費用確保に向けた調整を進めた結果、平成31年4月、茨城県つくば市への移転が決定されました。

設計・建設の過程では、建築資材価格や人件費の高騰など、財政面を含めてさまざまな困難に直面しましたが、関係機関の御理解と御支援の下、高度封じ込め施設を除く本庁舎、動物実験施設等を先行して整備することとし、令和7年3月、無事に竣工を迎えることができました。

また、移転の過程においては、承認審査や生物学的製剤の国家検定等への影響を最小限に抑えるため、関係者への情報提供を行いながら、移転計画の検討を進めました。加えて、承認申請資料等の機密文書や精密機器、病原微生物等の運搬に当たっては、関係機関と綿密に調整した上で、細心の注意を払って作業を進め、約3か月をかけて、昨年9月に全面移転を無事に完了することができました。

つくば庁舎への移転は、当検査所にとって新たな出発点です。これまで築き上げてきた歴史と経験を礎に、科学的知見に基づく検査・審査の一層の充実を図り、動物用医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保を通じて、安全な食料の安定供給と我が国の畜水産業の持続的発展に貢献してまいります。

令和8年の新春を迎えるに当たり、本年も引き続き、皆様の変わらぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。



## つくば新庁舎のご紹介

新たに整備された庁舎は、これまでの国分寺庁舎では分散していた複数の建物を集約し、業務の効率化と機能性の向上を図っています。また、執務室を大部屋化し、風通しのよい職務環境を目指しています。

主な建物として、本庁舎と動物実験施設が整備されています。

本庁舎は鉄筋コンクリート造・地上4階建てで、検査・研究・管理の各機能を一体化した構造となっており、動物用医薬品の品質確保を担う重要な拠点としての役割を果たしていきます。設計にあたっては、職員の作業効率の向上と快適な業務環境の確保にも十分に配慮されています。また、外観は周囲の環境と調和した落ち着いたデザインで、つくば

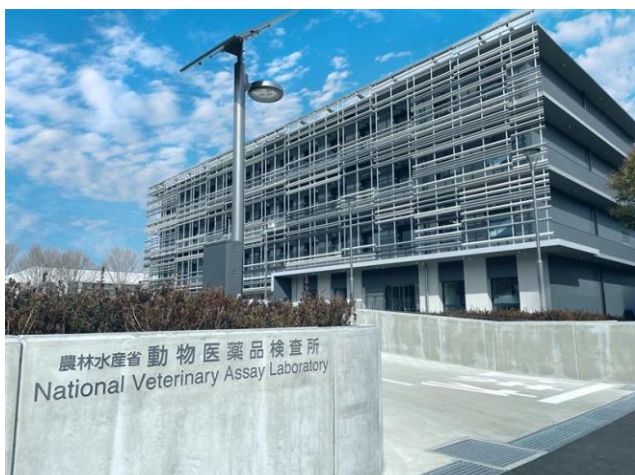
市の研究学園都市としての景観にも自然に馴染む造りとなっています。

動物実験施設は、鉄筋コンクリート造・地上1階建てで、生きた病原体を扱える感染エリアと、取り扱えない非感染エリアを区分し、感染エリアの動線をワンウェイにするなど、安全に配慮した設計となっています。

今後も動物医薬品検査所は、動物用の医薬品、医薬部外品、医療機器及び再生医療等製品が有効かつ安全であることを確認するため、開発・製造・販売・使用の各段階にわたり、品質確保に向けた審査・検査・調査・指導を行ってまいります。これにより、動物衛生及び公衆衛生の向上に貢献していく所存です。



つくば庁舎 全景



正門から



動物舎

本庁舎



正面玄関



玄関・ゲート



執務室（庶務課・会計課・企画連絡室）



所長室



研修室



研修実習室



ウイルス実験室（10）



分析機器室



菌株保管庫



図書室

### 動物舎



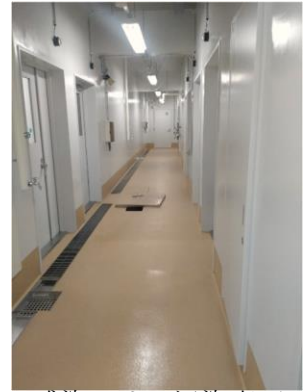
非感染エリア育雛用  
アイソレータ室



感染エリア牛豚飼育室



感染エリア清浄廊下



感染エリア汚染廊下

### 本庁舎 屋上



右手は太陽光パネル



筑波山の眺め



## 開所式

動物医薬品検査所は、令和7（2025）年9月、長年拠点としてまいりました東京都国分寺市から茨城県つくば市へ全面移転を完了し、新たな環境のもとで業務を開始いたしました。10月10日に執り行われた開所式には、農林水産省より消費・安全局長 坂 勝浩 様、大臣官房審議官 木下 雅由 様、畜水産安全管理課長 星野 和久 様、動物検疫所長 石川 清康 様、公益社団法人日本動物用医薬品協会理事長 池田 一樹 様をはじめとすご来賓をお迎えしました。式典では、所長の挨拶に続き、消費・安全局長 坂 勝浩 様より温かい祝辞を賜り、新体制の門出にふさわしい晴れやかな式となりました。

開所式後には、来賓の皆様にご覧いただく所内見学を実施し、新しい執務室や検査室などをご紹介しました。移転を機に、より充実した業務体制の構築を目指す当所の取り組みをご理解いただく貴重な機会となりました。



### 所長挨拶

所長 荻窪 恭明



所長の荻窪です。

つくば庁舎の開所式にあたり、一言ご挨拶させていただきます。

本日はお忙しい中、坂 消費・安全局長をはじめご来賓の皆さまにご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

当検査所は、昭和31年に、農林省の機構改革により、独立官署として東京都北区に誕生しました。昭和34年には、国分寺市に移転し、67年の長きにわたり、動物用医薬品の品質・有効性・安全性の確保をはじめ、畜水産物の安全確保と安定供給、家畜衛生や薬剤耐性対策の推進など、幅広い分野で重要な役割を担ってまいりました。

平成19年には、動物用医薬品の承認審査事務が本省から当検査所に移管され、開発から承認、製造、販売まで、すべての段階に主体的に関わる体制が整いました。

また、検査・検定方法の改良や、新たな課題への対応など幅広い調査・研究に取り組み、獣医学や関連分野の科学技術の発展にも貢献してまいりました。

今回のつくば市への移転は、当検査所にとって二度目の新たな出発です。そして、令和8年度には、創立70周年という節目を迎えます。この新しい環境で、私たち職員一同、最新の科学的知見に基づき、消費者や生産者、関係者の皆様から寄せられる期待に真摯に耳を傾け、当検査所の使命を改めて見つめ直し、未来に向けて果敢に挑戦してまいります。

つくば庁舎では、施設の集約化や執務室の大部屋化など、職場環境の改善が図られ、職員一人一人が持つ力を最大限に発揮できる環境が整いました。今後も、心理的安全性の高い組織づくりと、風通しのよい職場環境の整備に、一層努めてまいります。

ご来賓の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導と、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日もご臨席くださいました皆様のご健勝と、ご活躍を心より祈念いたしまして、開所式のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

## 来賓祝辞

消費・安全局長 坂 勝浩



消費・安全局長の坂 勝浩でございます。

本日ここに、動物医薬品検査所つくば新庁舎の開所式が挙行されるに当たり、一言お祝いを申し上げます。

このたびの新庁舎完成は、関係各位のご尽力の賜物であるとともに、日々職務に励んでこられた皆様一人ひとりの積み重ねがあつてこそ実現したものであります。まずは、これまでのご労苦に深く敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。

ご承知のとおり、我が国の家畜衛生を取り巻く状況は、豚熱や高病原性鳥インフルエンザなどの伝染病、薬剤耐性（AMR）対策、さらには新興感染症への備えなど、かつてないほどに多くの課題に直面しております。動物医薬品検査所は、動物用医薬品の品質・有効性・安全性を科学的に担保する中核機関として、畜水産業の健全な発展と国民の食の安全・安心を支

える極めて重要な役割を担っております。

本日ここに完成した新庁舎は、執務室の大部屋化や検査室の集約などの職員の執務環境改善とともに、研修施設の充実など、国内にとどまらず海外にも目を向けた動物用医薬品行政推進のための基盤として、大きな可能性を秘めています。この新しい環境を最大限に活用し、皆様がこれまで培ってきた知識と経験をさらに発展させ、業界、都道府県、動物検疫所、動衛研などの研究機関、そして海外との連携を含む広範な活動を通じて、社会からの期待に応えていただけるものと確信しております。

消費・安全局といたしましても、皆様と一体となって、国内外の獣医療上の課題に立ち向かい、動物医薬品行政をより確かなものとすべく、引き続き全力を尽くしてまいります。

結びに、ここで働かれる皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、新庁舎開所のお祝いの言葉といたします。

本日は誠におめでとうございます。

## 新庁舎御視察

開所式後には、来賓の皆様にも新施設をご覧いただく所内見学を行いました。今回の移転により、これまで課や領域ごとに分かれていた執務室は大部屋化され、部署間の連携がより円滑になる風通しのよい環境へと生まれ変わりました。加えて、複数の建物に分散していた検査室を機能的に集約し、業務効率の向上と安全性の確保を図るなど、職務環境も大きく充実しています。見学では、当所からこうした取り組みを丁寧にご説明し、参加者の皆様とも活発な意見交換が行われ、実りある時間となりました。

視察後、消費・安全局長 坂 勝浩 様より、「大変立派な施設で、国分寺庁舎からは隔世の感がありますね。今後も検査機器の購入及び計画的な更新を着実に進め、これまで以上に社会に貢献する成果を上げることを期待しています。」とのお言葉をいただきました。この期待に応えられるよう、職員一同、力を合わせて頑張っていくことを誓いました。



検査室での説明



屋上での意見交換

左から石川 所長、木下 審議官、坂 局長、星野 課長、荻窪 所長

## 開所式 ～概要～

開催日時：令和7年10月10日（金） 15時30分～  
場 所：動物医薬品検査所本庁舎 1階 研修室

### 次 第

- 一、開会の辞 (庶務課長 渡邊 康之)
- 一、所長挨拶 (所 長 荻窪 恭明)
- 一、来賓祝辞 (消費・安全局長 坂 勝浩 様)
- 一、閉会の辞 (庶務課長 渡邊 康之)

### 来賓名簿

御所属・御役職	御芳名
農林水産省	
消費・安全局	
局長	坂 勝浩 様
大臣官房審議官 兼 消費・安全局 兼 輸出・国際局	木下 雅由 様
畜水産安全管理課 課長	星野 和久 様
〃 飼料安全・薬事室 室長	大石 明子 様
〃 畜水産安全情報分析官	嶋崎 智章 様
畜産局	
畜産振興課 課長	富澤 宗高 様
動物検疫所	
所長	石川 清康 様
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門	
所長	勝田 賢 様
公益社団法人 日本動物用医薬品協会	
理事長	池田 一樹 様
副理事長	長井 伸也 様
副理事長	福井 寿一 様
専務理事	大石 弘司 様

### 動物医薬品検査所 出席者名簿

所長 荻窪 恭明	
検査第一部	動物分野AMRセンター センター長 関口 秀人 安全性検査領域 領域長 江口 郁
部長 嶋崎 洋子	企画連絡室
ウイルス学的検査第1領域 領域長 山本 欣也	室長 永田 知史
ウイルス学的検査第2領域 領域長 五藤 秀男	企画調整課長 宇野 美鈴
免疫・病理学的検査領域 領域長 佐藤 耕太	審査調整課長 高橋 周子
技術支援ユニット 総括第1作業長 大出水 幹男	技術指導課長 落合 絢子
検査第二部	庶務課長 渡邊 康之
部長 関谷 辰朗	会計課長 福澤 正俊
品質検査領域 領域長 小池 良治	他職員 (Webによる視聴)



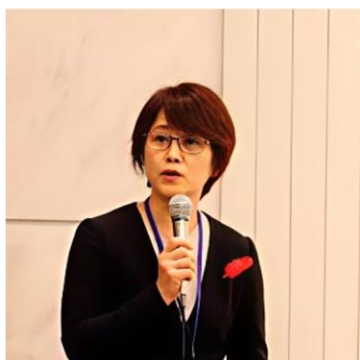
## つくば庁舎の開所を祝う会

開所式及び所内見学に続き、ホテル日航つくばにおいて、動物医薬品検査所の新たな門出を祝うため、開所を祝う会を開催しました。当日は、消費・安全局長 坂 勝浩 様をはじめ農林水産省本省幹部職員や公益社団法人中央畜産会副会長 姫田 尚 様をはじめとする関係団体の皆様、そして当所職員・OBを含む関係機関の皆様に御出席いただきました。

会は、検査第一部長 嶋崎 洋子による開会の辞に始まり、所長から主催者代表挨拶、そして、消費・安全局長 坂 勝浩 様による来賓挨拶、第14代所長・平山 紀夫 様の乾杯と続き、和やかな雰囲気の中で歓談が進みました。また、余興では、当所の歴史や移転の経緯、新庁舎の概要を紹介するプレゼンテーションを行い、さらに当所マスコットキャラクターである「ジェニファー」も登場し、会場を大いに盛り上げました。盛会の中、第19代所長・小原 健児 様の中締め、検査第二部長 関谷 辰朗により閉会の辞が行われ、節目を祝うにふさわしい充実したひとときとなりました。

### 開会の挨拶

検査第一部長 嶋崎 洋子



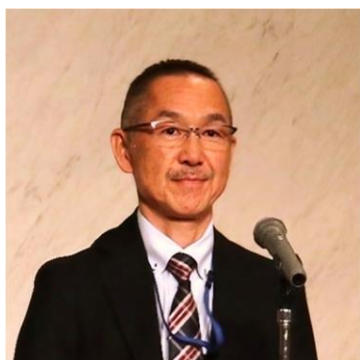
それでは、定刻となりましたので、ただいまから動物医薬品検査所つくば庁舎の開所を祝う会を開会いたします。来賓の皆様のほか、国・独法等の職員、動物医薬品検査所OB、また、関係団体の皆様におかれましては、本日は御多忙のところ、御臨席賜り誠にありがとうございます。

本日、司会進行をさせていただきます検査第一部長の嶋崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、本会の主催者を代表して所長の荻窪からご挨拶を申し上げます。荻窪所長、お願いいたします。

### 所長挨拶

所長 荻窪 恭明



祝う会の開催に当たり、主催者を代表して一言御挨拶させていただきます。皆さま、本日はお忙しい中、つくば庁舎の開所を祝う会に御臨席賜り、誠にありがとうございます。また、平素より当検査所の業務に対して、特段のご理解とご支援をいただき、心より御礼申し上げます。

先ほど15時30分より、つくば庁舎において、消費・安全局長をはじめとするご来賓の皆様ご臨席のもと、開所式を挙行し、滞りなく終了いたしましたことをご報告申し上げます。

本来であれば、多くの皆様にもご参列いただくべきところ、会場の都合によりご案内できませんでしたことを、心よりお詫び申し上げます。そのため、この後、新庁舎の施設を映像等でご紹介させていただきますので、ぜひご覧いただければと存じます。

さて、このたび、平成 31 年の東京都国分寺市から茨城県つくば市への全面移転の決定から7年の時を経て、ここ筑波の地に新庁舎が完成し、先月9月に無事移転が完了しました。これもひとえに、本日ご臨席頂いた皆様をはじめ、多くの関係者のご理解とご協力の賜物でございます。改めて深く感謝申し上げます。

当検査所は、動物用医薬品の品質・有効性・安全性の確保を通じて、動物の生命を守るとともに、畜水産

業の健全な発展や、食の安全を守るという重要な使命を担っております。

新庁舎の完成により、検査施設の充実・強化、働く環境の改善が図られ、さらに、隣接する動物衛生研究部門との連携・協力など、今後一層その責務を果たしていくことが可能となりました。

私たち職員一同、この歴史の転換点に立ち会えたことを誇りに、気持ちを新たに、社会の期待に応えられるよう研鑽を重ね、動物薬事行政、家畜衛生行政のさらなる発展に尽力してまいります。

本日の祝う会が、当検査所の新たな門出を祝うとともに、ご臨席頂いた関係者の皆さまとの交流を深め、今後の協力関係をより一層強固なものとする機会となれば幸いです。

結びに、本日ご臨席いただきました皆さまの益々のご活躍と、ご多幸を祈念いたしまして、主催者を代表してのご挨拶とさせていただきます。

なお、短い時間ではございますが、楽しんで頂ければ嬉しい限りです。

本日は誠にありがとうございました。

## 来賓祝辞

消費・安全局長 坂 勝浩



農林水産省消費・安全局長の坂 勝浩でございます。

本日ここに、動物医薬品検査所つくば新庁舎の開所を祝う会が、このように盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

まずは、検査所の運営に長年ご尽力されてこられた歴代の関係者の皆様、また今回の庁舎移転の実現にご協力いただいた多くの方々に、深甚なる敬意と感謝を表する次第でございます。新庁舎の完成は、まさに皆様の不断のご努力の結晶であり、ここ筑波の地に新たな拠点が築かれたことを、大きな喜びとともに受け止めております。

ご高承のとおり、我が国の家畜衛生をめぐる状況は、豚熱や高病原性鳥インフルエンザといった重大な家畜伝染病、さらには薬剤耐性（AMR）対策の高まり、新興感染症の脅威など、極めて厳しい課題に直面しております。皆様ご承知のとおり、先週、10月3日には、我が国で100例目となる豚熱の発生が群馬県の農場で確認され、動物医薬品検査所からも殺処分のため職員を派遣したところでした。こうした課題に対し、動物用医薬品の品質・有効性・安全性を科学的に担保し、国民から信頼される結果を示すことは、動物医薬品検査所の重要な使命であり、その責務はかつてなく重みを増しております。

また、畜産や食の安全に関わる課題は国境を越えて広がるものであり、VICHの枠組みや国際獣疫事務局（WOAH）とともに、各国の検査・研究機関との連携を深め、科学的知見を共有・発信することは、我が国に課せられた責務であります。検査所が国際社会においても確かな存在感を示されることを、強く期待いたします。

さらに、将来を見据えれば、国内外に向けて活躍する次代を担う人材の育成も不可欠であります。新庁舎の優れた執務や検査環境を活用し、若い人材が大きく育ち、我が国の動物医薬品行政を持続的に支える力となっていただきたいと存じます。

新しいつくば庁舎は、執務室の大部屋化や施設の集約、研修検査施設の整備など、さまざまな改善が図られています。より充実した環境をもとに、動物医薬品検査所は、国内にとどまらず海外にも目を向けた動物用医薬品行政推進のための基盤として、ますます期待される所です。

農林水産省といたしましては、本省と動物医薬品検査所をはじめとした関係機関が一丸となって、国内外の諸課題に果敢に取り組むとともに、食料・農業・農村基本法の理念に基づき、国民への食料の安定供給と食の安全確保、環境との調和を踏まえた畜水産業の持続的な発展、さらには消費者からの揺るぎない信頼の確立に向け、不断の努力を重ねてまいります。

結びに、本日ご臨席の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げますとともに、動物医薬品検査所、そして日本の農林水産業のますますの発展を心より祈念いたしまして、私の祝辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

## 乾杯の挨拶 ～動物医薬品検査所つくば庁舎の開所を寿ぐ～

第14代所長 平山 紀夫



動物医薬品検査所がつくば市に無事移転され、2025年9月から業務を開始された由、誠におめでとうございます。

1956年6月に設立された動物医薬品検査所は、1959年国分寺市戸倉に新庁舎を建て本格的な業務を開始しました。以来66年間戸倉庁舎で、動物用医薬品の検定・検査業務を行いつつ調査研究でも目覚ましい成果を挙げてきました。一方、抗生物質製剤の検定が廃止された1995年以降、業務内容が大きく変化しました。ワクチンに関しては2008年からシードロット化が進み、実験室での試験や動物試験が激減し、書類での検定に移行しました。また、2007年からは本省で行われていた動物用医薬品等の承認審査業務が全面的に動物医薬品検査所に移管されました。この間国際的には、JICAの技術協力を積極的に参加し、日米欧三極による動物用医薬品の承認審査資料の調和に関する国際協力(VICH)に日本政府の代表として参画し、ガイドラインの採択に大きく貢献してきました。また、1997年に再燃した薬剤耐性菌に関する国際会議に出席した後、1999年には薬剤耐性モニタリング体制(JVARM)を構築し、国際的に高く評価されるまでになりました。2023年には所内に「動物分野AMRセンター」が設立され、薬剤耐性対策アクションプランを主動しています。このように動物医薬品検査所は、動物用医薬品に関する唯一の国立機関として国内外にその存在価値を高めてきました。

更に、定員80名前後の小所帯である動物医薬品検査所に勤務した方々のうち、これまでに11名が獣医大学の教授として活躍されていることは稀有なことでもあります。その教え子が、動物医薬品検査所に就職するという好循環を生み出しています。

つくばへの移転直前の7月に動物医薬品検査所OB会が、戸倉における建物の推移とそこで勤務した会員の思い出を記録した小冊子「国分寺市戸倉での動物医薬品検査所を振り返る」を発行しました。OB会員はもとより現役の方々にとっても忘れがたい思い出となるはずで、機会を見付け一読していただければ幸いです。

国分寺市戸倉で築き上げた伝統を、つくばの新庁舎で更に積み重ねられることを期待するとともに、動物医薬品検査所に勤務する又は勤務した諸兄が世界に羽ばたかれるよう祈念します。

## 歓 談



余興

企画連絡室長 永田 知史

余興では、企画連絡室長及び技術指導課係長 田村 直也、検査第一部検査員 羽生 航、検査第二部検査員 磯部 哲志、企画調整課係員 宅原 真理らにより、当所の歴史、移転に係る経緯の説明の後、当所の施設について詳しく紹介しました。当所のマスコットキャラクターである牛のジェニファーもゲスト参加し、御出席の皆様とともに、祝う会のひと時を楽しむとともに、交流を深めました。



余興に参加しているジェニファー

新庁舎のお披露目スライド(冒頭部分)

農林水産省  
動物医薬品検査所  
お披露目

つくば庁舎 開所  
2025年(令和7年)6月

令和7年8月  
67年間の国分寺での  
業務を終えました

そして.....

1948年(昭和23年)：家畜衛生試験場(現畜産機構動物衛生研究部門)の検査部として設置  
1950年(昭和25年)：農林省畜産局に課事務が設置、畜産課身主として業務継承  
1956年(昭和31年)：衛生課分室を設け、「動物医薬品検査部」として独立  
1957年(昭和32年)：国分寺市庁舎で建築開始  
1959年(昭和34年)：国分寺市に庁舎移転  
1965年(昭和40年)：都市計画道路の整備決定  
1968年(昭和43年)：業務部及び運転課を検査第一部及び検査第二部に再編  
1989年(平成元年)：企業連絡室を設置/道路計画職員拡大(30.5m)  
2002年(平成14年)：庶務課を庶務課・会計課に再編  
2008年(平成20年)：道路計画職員拡大(43m)  
2019年(令和二年)：特定国産肉産物整備計画が決定し、つくば市への全面移転に着手  
2022年(令和四年)：つくば庁舎の建設開始  
2025年(令和七年)：3月つくば庁舎竣工  
2025年(令和七年)：6月～9月にかけて順次つくば庁舎へ移転

2025年(令和7年)6月

農林水産省 動物医薬品検査所  
National Veterinary Assay Laboratory

つくば庁舎 開所

移転スケジュール

開所を祝う会 10月10日

検査第二部長 企画連絡室長  
庶務課 会計課  
企画調整課 審査調整課  
技術指導課 品質検査領域  
動物分野AMRセンター

7月1日～

6月1日～

期間：5月～8月  
トラック 延べ130台  
○文書等(段ボール約3,000箱)  
・申請書等  
・検査・研究資料  
・図書  
・庶務・会計等資料  
○冷凍庫(電源を入れたまま)：42台  
○試薬、微生物等  
○実験器具・機材・冷蔵庫等  
○机・椅子・書棚 等

※庶務課、会計課及び企画調整課は6月と9月に分かれて移転

## 中締め挨拶

第19代所長 小原 健児



宴もたけなわではございますが中締めをさせていただきます。

私は、平成29年から5年間、動物医薬品検査所長を務めました。私の在任中には、動物医薬品検査所の移転に関して、予算の獲得から施設の基本設計をするところまでの仕事に携わりましたが、やはり予算の獲得の仕事が深い記憶として思い出に残っておりますので、2点ほど当時のエピソードをご紹介します。

一つ目は、財務省理財局との折衝についてです。施設整備の費用については、特定国有財産整備計画を活用することになり、整備費用の算定は国分寺庁舎の評価額が基本になります。しかし、当時、施設整備については世間の目がひときわ厳しく、当所移転に関する査定が困難になることが予想されました。その影響のためかは分かりませんが、当所が想定していたものよりも10億円程度低い評価結果になったと記憶しています。地域の不動産相場や各種の土地評価の資料を取り揃えて反論しましたが、財務省からは「これ以上何ともなりません」と強い姿勢が貫かれ、最終的に先方の意向に従う形になりました。評価額が高ければ、それだけ建設費に割くことができたため、移転の仕事の中で、最も残念に思っているところです。

もう一つは、財務省主計局とのやりとりについてです。主計局主査には折に触れて移転に関する進捗状況を説明していました。一般予算要求の主査説明において、理財局との折衝を終えて財務大臣から認可をいただいた旨を報告した際、主査が、国分寺庁舎解体時の予算について懸念を示されました。特に、主査は、理財局予算で措置されていない土壌調査とその措置に要する費用が要求されることを心配していました。当方から、既に行ったモニタリング調査で有害物質が検出されなかったことや、動物医薬品検査所の各種試薬の管理の徹底について丁寧に説明しましたが、一向に納得されません。やりとりが平行線で先が見えない状況の中、最終的にこちらから、土壌調査等の調査は移転完了後でないとは実施できないため、いずれにせよ7年後に再検討が必要となる費用である旨を説明したところ、何とか了承いただけました。非常にひやひやした思い出です。

その他にも、何度も行った職員説明や、建設資材が高騰し始めていたので急いで基本設計を作ったことなど多くの思い出がありますが、今振り返ると将来に向けた有意義な仕事に携われたことができたことに感謝しています。

最後に、移転作業に関わった者として、無事に開所に繋げていただけて本当にありがとうございました。改めて感謝申し上げます。先ほど、新庁舎を拝見させていただきましたが、立派で働きやすい職場で非常に感慨深く感じました。動物医薬品検査所の職員の皆さんは非常に能力が高い専門家集団です。新庁舎での職場環境の中で大いに活躍いただきたいと思います。

それでは、動物医薬品検査所の業務が新しい庁舎において効果的に進み、有用で安全な動物用医薬品が安定的に供給されることをお願い申し上げます、関東一本締めで締めたいと思います。

## 閉会の辞

検査第二部長 関谷 辰朗



本日はお忙しい中、多くの皆さまにお越しいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、終始なごやかな雰囲気のもと、温かいお祝いと今後への期待のお言葉をたくさん頂戴しました。

皆さまのお力添えがあつての動物医薬品検査所であることを改めて強く感じております。

このつくばの地で、充実した環境のもと、当所の使命を一層確実に果たすべく、職員一同、力を合わせて全力で取り組んでまいります。今後ともご指導、ご支援のほどよろしく願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。これをもちまして閉会とさせていただきます。どうぞお気をつけてお帰りください。

## つくば庁舎開所式を祝う会 ～概要～

開催日時：令和7年10月10日（金） 18時15分～  
場 所：ホテル日航つくば本館3階ジュピター

### 次 第

- 一、開 会 の 辞 (検査第一部長 嶋崎 洋子)
- 一、主催者代表挨拶 (所 長 荻窪 恭明)
- 一、来 賓 挨 拶 (消費・安全局長 坂 勝浩 様)
- 一、乾 杯 (第14代 所 長 平山 紀夫 様)
- < 歓 談 >
- 一、余 興 (企画連絡室長 永田 知史)
- 一、中 締 め (第19代 所 長 小原 健児 様)
- 一、閉 会 の 辞 (検査第二部長 関谷 辰朗)



来賓名簿

農林水産省 本省・独立行政法人等・当所OB(順不同)

御所属・御役職	御芳名	御所属・御役職	御芳名
消費・安全局		動物検疫所	
局長	坂 勝浩 様	所長	石川 清康 様
大臣官房審議官 兼 消費・安全局 兼 輸出・国際局	木下 雅由 様	企画管理部 部長	國分 玲子 様
畜水産安全管理課 課長	星野 和久 様	検疫部 部長	珠玖 知志 様
〃 飼料安全・薬事室 室長	大石 明子 様	独立行政法人 農林水産消費安全技術センター	
〃 水産安全室 室長	芳之内 一美 様	理事	橋本 陽子 様
〃 畜水産安全情報分析官(第20代所長)	嶋崎 智章 様	肥飼料安全検査部 部長	古川 明 様
〃 課長補佐(薬事監視指導班担当)	柳澤 洋喜 様	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	
〃 課長補佐(薬剤耐性対策班担当)	保坂 綾 様	動物衛生研究部門	
〃 課長補佐(動物用医薬品等安定供給対策)	内山 万利子 様	所長	勝田 賢 様
〃 家畜衛生専門官(飼料安全・薬事室薬事監視指導班)	神 基 様	研究推進部 部長	川島 健司 様
〃 獣医事監視班 国家試験係長	川嶋 太喜 様	研究推進部 研究推進室 室長	小林 創太 様
動物衛生課 国際衛生対策室 室長	松尾 和俊 様	疾病対策部 行政連携室 室長	大森 純一 様
〃 家畜防疫対策室 室長	武久 智之 様	独立行政法人 農畜産業振興機構	
〃 課長補佐(防疫指導班担当)	小佐々 隆志 様	理事	大倉 達洋 様
畜産局		調査情報部 審査役	金原 真理子 様
大臣官房審議官 兼 畜産局	関村 静雄 様		
企画課 畜舎基準企画班 基準企画係長	岡本 智香 様	元所長(現役職員・団体役員を除く)	
畜産振興課 課長	富澤 宗高 様	第14代所長	平山 紀夫 様
〃 畜産専門官(アニマルウェルフェア推進班)	須藤 加澄 様	第15代所長	牧江 弘孝 様
農林水産技術会議事務局		第16代所長	境 政人 様
筑波産学連携支援センター センター長	田雑 征治 様		

関係団体(順不同)

御所属・御役職	御芳名	御所属・御役職	御芳名
公益社団法人 中央畜産会 副会長	姫田 尚 様	公益社団法人 畜産技術協会 専務理事	松本 博紀 様
公益社団法人 日本食肉格付協会 理事	小野 哲士 様	一般社団法人 日本養豚協会 専務理事	鋤柄 卓夫 様
公益社団法人 日本動物用医薬品協会 理事長	池田 一樹 様	一般社団法人 家畜改良事業団 理事長	富田 育稔 様
〃 副理事長	福井 寿一 様	公益財団法人 畜産近代化リース協会 理事	伊藤 和夫 様
〃 専務理事	大石 弘司 様	一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金 業務部長	新川 俊一 様
公益社団法人 日本獣医師会 専務理事	伏見 啓二 様	日本中央競馬会 馬事部 部長	松田 芳和 様
〃 事務局長	駒田 逸哉 様	〃 防疫課 課長補佐	和久野 愛 様
全国酪農業協同組合連合会 専務理事	熊谷 法夫 様	一般財団法人 日本生物科学研究所 理事長	長井 伸也 様
一般社団法人 食肉科学技術研究所 理事長(第19代所長)	小原 健児 様	〃 所長	杉浦 勝明 様
一般社団法人 生物科学安全研究所 理事長(第18代所長)	山本 実 様	〃 常務理事	林 志鋒 様
〃 専務理事	能田 健 様	日生研株式会社 取締役	齋藤 敏樹 様
一般社団法人 全国動物薬品器材協会 理事長	相原 夏実 様	一般財団法人 松岡科学研究所 常務理事	天野 健一 様
〃 副理事長	市野沢 信成 様	公益社団法人 日本食肉協議会 参与	青谷 宏之 様
〃 専務理事	塩田 忠 様	一般社団法人 日本養鶏協会 業務第一部長	高木 貞治 様
一般社団法人 日本畜産副産物協会 専務理事(第17代所長)	伊藤 剛嗣 様		



## けやきコラム

この度、「動薬検ニュース」を茨城県つくば市への庁舎移転記念号として復刊しました。体裁や文字の大きさなどを改善しつつも、休刊時点のスタイルを可能な限り復元しています。

さて、情報発信手段としてインターネットが「標準」となってから、四半世紀が経とうとしています。当所もホームページを開設し、情報発信の即時性や普及性を確保する一方で、「動薬検ニュース」は、その位置づけを模索しながらも2011年に休刊しました。

しかし、コロナ禍を経て、よりいっそうあふれ出す情報の波を経験した上で、テーマを体系的に整理し、深い分析を提供できる刊行物は、紙媒体であれ

電子媒体であれ、大きな価値を持つのではないかと小職は考えています。その意味でも、今回の庁舎移転は、当所にとって大きな節目であり、情報発信のあり方を改めて考えるよい契機となりました。

復刊に当たり、動薬検ニュースの第1号（昭和51年〔1976年〕4月）を読みました。そこには、発行の目的として「最新ニュースを通じて、明日への方向付けを速やかに行う」と、佐澤弘士第5代所長が述べられていました。時を経て、今、多くの情報発信手段がある中で、動薬検として何をすべきか問われている気がします。

ところで、企画連絡室長による編集後記であるこの「けやきコラム」ですが、皆さん名前の由来をご存じでしょうか？ 実は、国分寺市の「市の木」に由来しています。そして、偶然か必然か、つくば市の「市の木」も「けやき」です。何か運命的なものを感じています。



## 所在地（地図・アクセス）



### 動物医薬品検査所アクセスマップ

#### 所在地情報

住所：〒305-8535  
茨城県つくば市観音台2丁目1-22  
電話：029-811-6380

#### 拡大図



#### 公共交通機関

つくばエクスプレス線 又は JR常磐線

#### 【各駅からバス】

- バス停：農林団地中央下車
- つくば駅（つくばエクスプレス：TX）
    - つくバス（南部シャトル）：2番のりば
  - みどりの駅（つくばエクスプレス：TX）
    - つくバス（自由ヶ丘シャトル）
    - 関鉄バス
  - 牛久駅（常磐線 JR東日本）
    - 関鉄バス：牛久駅西口

### ホームページ 情報発信中！



<https://www.maff.go.jp/nval/index.html>

### 編集・発行

## 農林水産省動物医薬品検査所

企画連絡室

茨城県つくば市観音台2丁目1-22  
〒305-8535  
電話：029-811-6380  
発行日：令和8年2月15日

